

《長崎新聞 平成 24 年 2 月 27 日朝刊より転載》

【質問】私の父は寝たきりで胃ろうを装着しています。最近、胃ろうが話題になっているようですが、詳しく教えてください。

(56歳・主婦)

胃ろう

【回答】超高齢社会を迎え、胃ろうを装着する人が増えていきます。それとともに胃ろうに関する問題点が明らかになってきました。

胃ろうとは、おなかに開けた穴を通して胃に管をつ

なぎ、管を通して栄養分や水分を人工的に送る方法です。口から食べることができなくなつた患者や嚥下(えんげ)性肺炎を繰り返し患者に対して作製されま

おなかに穴開け栄養送る

す。手術は内視鏡を使う方法が一般的です。

しかし、日常的に胃ろうが作られるようになり、問題が生じてきました。回復が見込めない高齢者に胃ろうを作ると、いたずらに長生きさせる場合があります。本人は苦痛なのではな



いか、本当に生きていきたいのかなどの疑問が出てきたのです。

な課題になっています。こうした中、日本老年医学会は1月にまとめた「高齢者の終末期の医療およびケアに関する「立場表明」」の中で、胃ろうの作製と中止に関する見解を表明しました。それは「終末期の最善の医療およびケアとは、残さ

それには嚥下機能が回復したら胃ろうを中止するのが本来の使い方ですが、胃ろうを中止できる患者は少ないのが現状です。高齢者が食べられなくなったとき、胃ろうを作るべきか、また、いつ胃ろうをやめるのかは医療者や家族にとって大きな課題です。本人の尊厳を損ね

本人意思を尊重、慎重に

たり、苦痛が増えたりする可能性があるときは、差し控えや撤退を考慮する必要があります」ともしています。

胃ろうの作製や中止の判断は患者の意思を最優先し、次に患者の事前の指示書や推定される患者の意思を尊重すべきとされています。患者の意思が不明の場合は家族と相談することになりますが、何が患者にとって重要かを判断することが大切です。

それでも胃ろうなどの延命措置の中止の判断は現場では依然として難しい問題です。胃ろうの中止例を増やすには、法制化や中止の具体的な条件、手続きを明記したガイドラインが必要です。(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。